

IV-2-2 近畿

京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県において
外国人延べ宿泊者数が過去最高を記録
大阪・関西万博の開幕に向けたプレイベントや
キャンペーンが各地で開催

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

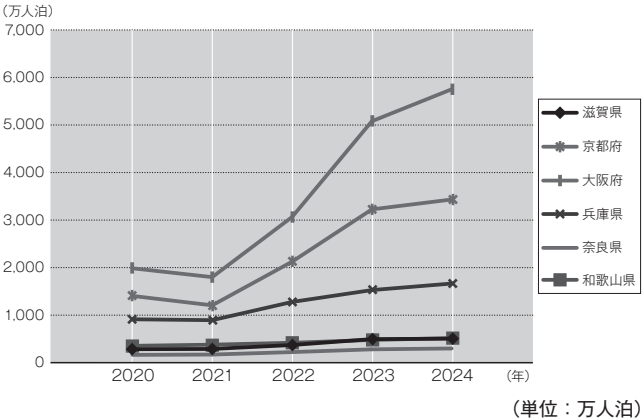
① 宿泊者数の動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2024年1月から12月の近畿地方の延べ宿泊者数は12,089万人泊と前年比9.9%増加となった。府県別に見ると大阪府で前年から13.3%増加したほか、兵庫県で前年比9.1%増、和歌山県で8.3%増、奈良県で7.0%増、京都府で6.5%増、滋賀県で2.1%増とすべての府県でプラスとなった(図Ⅳ-2-2-1)。また、京都府と大阪府、兵庫県、奈良県はコロナ禍前の2019年時点の数字を上回った。

外国人延べ宿泊者数については、近畿地方全体では4,536万人泊で前年比37.3%増となり、過去最高となった。府県別に見ると、和歌山県で52.3%増、兵庫県で48.2%増、京都府で39.6%増、大阪府で35.4%増、奈良県で19.6%増、滋賀県で17.9%増となり(図Ⅳ-2-2-2)、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県は過去最高となった。

延べ宿泊者数に占める外国人延べ宿泊者数を府県別に見ると、京都府で49.5%、大阪府で44.2%と5割に迫る比率であり、和歌山県15.7%、奈良県14.1%、兵庫県9.1%、滋賀県6.9%に比べると圧倒的に高くなっている。

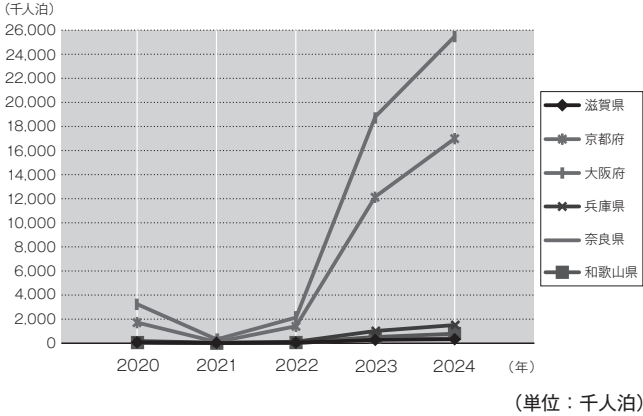
図Ⅳ-2-2-1 延べ宿泊者数の推移(近畿)



都道府県名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
滋賀県	268	273	356	480	490
京都府	1,390	1,192	2,111	3,213	3,421
大阪府	1,972	1,786	3,052	5,070	5,743
兵庫県	898	879	1,263	1,513	1,651
奈良県	148	155	207	265	283
和歌山県	339	363	403	463	501

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-2-2-2 外国人延べ宿泊者数の推移(近畿)



都道府県名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
滋賀県	60	19	41	286	337
京都府	1,708	106	1,413	12,133	16,938
大阪府	3,225	319	2,130	18,755	25,394
兵庫県	180	53	126	1,016	1,506
奈良県	57	7	32	334	400
和歌山県	69	10	74	517	788

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

② 関西国際空港の利用動向

関西国際空港の運営を行っている関西エアポートが2024年1月に発表した利用状況によると、2024年の国際線と国内線を合わせた航空旅客数は3064.9万人となり、前年比31.2%増となった。国際線旅客数は2,391.8万人で前年比45.7%増となったが、国内線は2.9%減となった(表Ⅳ-2-2-1)。

表Ⅳ-2-2-1 関西国際空港の発着回数と旅客数

	2023年(単位:人)	2024年(単位:人)	前年比(伸び率)
発着回数	157,162	193,134	22.9%
国際線	107,028	145,106	35.6%
旅客便	83,915	125,686	49.8%
貨物便	21,744	18,052	△17%
その他	1,369	1,368	△0.1%
国内線	50,134	48,028	△4.2%
旅客便	48,374	46,223	△4.4%
貨物便	6	7	16.7%
その他	1,754	1,798	2.5%
旅客数	23,352,370	30,649,747	31.2%
国際線	16,419,425	23,918,876	45.7%
日本人	3,308,909	4,893,311	47.9%
外国人	13,011,728	18,923,373	45.4%
通過旅客	98,788	102,078	3.3%
国内線	6,932,945	6,730,871	△2.9%

資料：関西エアポート(株)のウェブサイトをもとに筆者作成

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

●大阪・関西万博開幕

2025年4月13日、“いのち輝く未来社会のデザイン”をテーマに2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が大阪市の夢洲(ゆめしま)で開幕した。1970年の大阪万博、2005年の愛・地球博に続く、国内で3度目の大規模な国際博覧会であり、SDGs達成への貢献も大きな目的として掲げられている。

開催期間は2025年4月13日から10月13日までの184日間とし、想定来場者数約2,820万人を掲げている。開幕前は会場建設費・資材の高騰や、海外パビリオンの建設遅延、国民の関心度の伸び悩みといったさまざまな課題があったものの、182のパビリオンが開設され、開幕から約4か月が経過した8月6日には来場者数が1,500万人を突破した。

近畿圏内の各府県においても開幕前からさまざまなイベントやキャンペーンが開催されたほか(表Ⅳ-2-2-2)、夢洲の会場だけでなく、自分たちの町をもうひとつの万博会場と見立て、イベントやプロジェクトを発信する「まちごと万博」等が展開され、機運を盛り上げた。

また、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会は、観光ポータルサイト「Expo 2025 Official Experiential Travel Guides」を開設し、万博のテーマと親和性の高い体験旅行商品の掲載・販売を行った。

開幕に向けては、会場となる夢洲までのアクセスを向上させるため、2025年1月にはOsaka Metro(大阪メトロ)中央線のコスモスクエア駅～夢洲駅間(約3.2キロメートル)が延伸し、夢洲駅がオープンした。また、建設中の阪神高速道路「淀川左岸線(2期)」の一部が、新大阪駅や大阪駅等、主要ターミナルと万博会場を結ぶシャトルバスの専用ルートとして暫定供用された。

表Ⅳ-2-2-2 各府県の大阪・関西万博関連イベント、キャンペーンの例

滋賀県	・滋賀ミライ EXPO(2024/11/2) ・いこうぜ♪滋賀・びわ湖(2024/9/21～2025/10/31)
京都府	・きょうとまるごとお茶の博覧会(2025/4～10) ・第2回日本国際芸術祭(2024/10/1～11/30) ・けいはんな万博2025(2025/4/13～10/13)
大阪府	・開幕1年前「いくぞ! 万博」フェスティバル(2024/4/17) ・万博開幕6か月前イベント(2024/10/13) ・PARK JAM EXPO 2024-2025 (2024/11/2～4、2025/9/14～11/10) ・咲洲ブレ万博(2023/4～2025/3) ・咲洲サテライト万博(2025/4～10)
兵庫県	・ひょうご EXPO(ひょうご EXPO ターミナル、ひょうごフィールドパビリオン、ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル2025等)(2025/4/6～10/13) ・神戸・姫路ばんばくーぽんキャンペーン(2025/4/25～10/13)
奈良県	・関西・歴史文化首都フォーラム in NARA(2024/5/16) ・EXPO2025半年前スペシャルイベント -万博へ! みんなで紡ぐ 奈良の未来-(2024/10/20)
和歌山県	・わかやまブレ万博(2024/10/12・13) ・プラスワントリップ和歌山キャンペーン(2025/4/13～10/13)

資料:各府県、イベント、キャンペーンのウェブサイトをもとに筆者作成

●観光列車「はなあかり」運行開始

JR 西日本は2024年10月5日、新たな観光列車「はなあかり」の運行を開始した。“地域の華を列車に集め、お客様と地域の縁を結ぶ列車”をコンセプトとし、西日本の工芸品やアートで彩られた車内では沿線の食事が提供され、上級クラスの半個室席(スーパーアグリーン)も設置。エリアを変えながら西日本各地を運行するのが特徴で、第一弾(2024年10月5日～12月22日)は敦賀駅から城崎温泉駅までを運行した。

●滋賀県大型観光キャンペーン「いこうぜ♪滋賀・びわ湖」

2025年の大阪・関西万博や滋賀県内での「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ2025」開催を絶好の機会と捉え、大型観光キャンペーン「いこうぜ♪滋賀・びわ湖」(2024年9月21日～2025年10月31日)を実施。琵琶湖をはじめとする雄大な自然と共生し、心のリズムを整える新しい旅のスタイルを提案する“シガリズム”をコンセプトとし、滋賀ふるさと観光大使を務める西川貴教氏をアンバサダーとして起用している。万博会場の滋賀県ブースと滋賀県の観光地を訪れることで入手できる「滋賀スペシャル NFT」の発行や、琵琶湖周辺の鉄道やバスが乗り放題になる「鉄道版ビワイチパス」の発行、電気自動車(EV)での対象施設来訪者に割引や特典を提供するEV 優遇観光周遊企画を実施する等、広域・県内周遊を促進する企画となっている。

●京都府と京都市による府市連携“まるっと京都”

京都府及び京都市では、京都府知事と京都市長による「府市トップミーティング」において、府市連携による周遊観光を一層推進していくことを確認。「もうひとつの京都」(海の京都、森の京都、お茶の京都等)や「とっておきの京都」(伏見、大原、高雄、山科、西京、京北)エリアの周遊観光促進に取り組んでいくためのキャッチコピーを“まるっと京都”とし、周遊観光ツアーの販売等を開始した。

●関西国際空港第1ターミナルビルリニューアルオープン(大阪府)

関西国際空港の第1ターミナルビルは、開業以来初となる大規模リニューアルが行われ、2025年3月にオープンした。大阪・関西万博に向け、国際線旅客の増加に対応することを目的に、商業エリアやラウンジを充実させ、入国審査場や保安検査場も拡張。改装により、第1ターミナルで受け入れ可能な国際線旅客数は年間3,000万人に増える。

●Osaka Metro、ウォークスルー型顔認証改札サービスを開始(大阪府)

Osaka Metro は、大阪・関西万博に向けたキャッシュレス・チケットレス改札の取り組みの一環として、2025年3月25日からウォークスルー型顔認証改札サービスを開始した。顔認証改札機はOsaka Metro 全134駅中130駅に設置し、e METRO アプリで購入できるデジタル乗車券と事前に登録した顔情報を紐付けることで利用できる。

●大阪・夢洲地区複合観光施設整備の動き(大阪府)

2024年度の大阪IR計画は、2030年秋頃の開業に向け、計画段階から本格的な建設フェーズへと移行した。3月に事業者と金融機関との間で5,500億円規模の融資契約が成立したことを受け、10月には夢洲で地盤対策等の準備工事に着手。2025年4月には起工式が開催され、建設工事が開始された。

●大阪府と和歌山県が共同で大規模津波防災総合訓練を実施

2024年8月、宮崎県で震度6弱を観測した日向灘を震源とする地震(マグニチュード7.1)の発生を受けて、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」を発表した。和歌山県では2024年11月の県防災会議で地域防災計画の修正案が承認され、避難所の質の向上や、支援の受援体制の強化等に加え、住民や通勤・通学者と並ぶ主要な保護対象として「観光客、買い物客その他の来訪者」も明確に書き加えられた。また、2024年11月には大阪府と和歌山県が共同で南海トラフ巨大地震の発生を想定した大規模津波防災総合訓練を実施し、ここでも外国人観光客を対象にした避難誘導訓練等が盛り込まれた。

●「奈良県観光戦略本部会議」の設置

2024年5月、奈良県は知事を本部長とする「奈良県観光戦略本部会議」を新たに設置した。民間の専門的知見を積極的に取り入れ、従来の課題であった「日帰り観光」から「滞在型観光」への転換を強力に推進することを目的としている。その実現に向け、2030年度までに「延べ宿泊者数500万人」、「観光消費額4,200億円」という新たな数値目標を掲げ、成果を重視する新体制へと移行した。

●世界遺産登録20周年記念事業(和歌山県、奈良県、三重県)

2024年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年を迎え、和歌山・奈良・三重の3県が連携し、年間を通じて多彩な記念事業を展開した。7月7日の登録記念日には「世界遺産登録20周年記念フォーラム in 高野」等が開催されたほか、伊勢神宮から熊野速玉大社までを14回に分けて踏破する「熊野古道伊勢路踏破ウォーク」や、南海電気鉄道と高野山真言宗総本山金剛峯寺による「ふれたい、高野山。2024」(5月11日～12月1日)が開催された。また、和歌山県立博物館では、特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」が複数会期にわたり開催され、金剛峯寺や熊野三山では、この期間に合わせて特別参拝や通常非公開エリアや宝物の特別公開等が行われた。

②広域・市町村レベル

●新規オープン施設

○「ニンテンドーミュージアム」(京都府)

任天堂は2024年10月、京都府宇治市の宇治小倉工場跡地に「ニンテンドーミュージアム」を開業した。花札から最新ゲーム機まで、同社の歴史を物語る製品を展示するだけでなく、往年の商品を現代の技術で楽しめる体験型の展示も充実。任天堂の歴史とものづくりにふれる新たな観光拠点として注目を集めており、完全事前予約・抽選制で運営されている。

○USJ「ドンキーコング・カントリー」(大阪府)

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)では、任天堂をテーマにしたエリア「スーパー・ニンテンドー・ワールド」内に、「ドンキーコング」の世界を再現した「ドンキーコング・カントリー」が2024年12月に開業。ライド・アトラクション「ドンキーコングのクレイジー・トロッコ」やパワーアップバンド(別売)を使って、エリア内のさまざまな場所で体を動かして楽しむインタラクティブ体験もできる。

○「グラングリーン大阪」南館(大阪府)

JR大阪駅北側エリアの再開発である「うめきたプロジェクト」の2期エリアにある「グラングリーン大阪」は2024年9月に先行まちびらきを行い、公園の一部と商業施設が先行オープン。2025年3月にはショップ&レストラン、ホテル、MICE施設等が入る南館がグランドオープンした。約750㎡の大ホール、約450㎡の小ホール、大小12の会議室等を有する都市型MICE施設「コングレスクエア グラングリーン大阪」も入る。2027年春頃に、ノースパークの西側を含む全体開業を予定している。

○「神戸須磨シーワールド」(兵庫県)

「神戸須磨シーワールド」(神戸市)は須磨海浜水族園の跡地に「つながる」エデュテインメント(教育+エンターテインメント)をコンセプトとして2024年6月にオープン。西日本では唯一となるシャチのパフォーマンスが行われるほか、隣接する「神戸須磨シーワールドホテル」には、イルカが泳ぐラグーンが日本で初めて常設されており、客室からイルカを眺めることができる。

○日本初進出のホテルブランドが進出

「グラングリーン大阪」内にオープンしたヒルトンの最上級ラグジュアリーブランド「ウォルドーフ・アストリア大阪」(2025年4月、248室)や、ヒルトンのプレミアムライフスタイルブランド「キャノピー by ヒルトン大阪梅田」(2024年9月、308室)は日本初進出ブランドとなった。また、2024年4月、京都・東山にIHGホテルズ&リゾーツの最上級ホテルブランド「シックスセンシズ 京都」(81室)がオープン。ウェルビーイング、サステナビリティをコンセプトに掲げる。さらに2024年8月にはシンガポール発のラグジュアリーリゾートホテルブランド、バンヤンツリーの日本初進出第1号として「バンヤンツリー・東山 京都」(52室)がオープン。京都市内のホテルとして唯一、能舞台を併設している。

●多様な観光財源確保、既存税率見直しの動き

京都市は宿泊税の導入から5年が経過。持続可能な観光を実現するさまざまな取り組みの財源確保のため、税率の改定を含む宿泊税条例の改正案が2025年3月に市議会で可決された。高価格帯の宿泊施設が増加している実態も踏まえ、新たに1泊10万円以上の区分を設け税額を1万円としたほか、これまでの3区分から5区分に分ける等、負担能力に応じた課税強化を図る。この改正により、年間税収は現行の約52億円から約126億円へと大幅な増加が見込まれており、2026年3月から

の適用を目指している。

さらに京都市では、2024年9月から訪日外国人観光客を対象にオンラインで寄付を募る「Preserve Kyoto Gift」を開始。寄付者は返礼品として、寄付額の50%にあたる電子ギフト券を受け取り、京都市内の加盟店で利用することができる。

大阪ガスとギフトが、新しいふるさと納税の仕組みとしてリリースした「関西おでかけ納税」の採用も進み、京都府宇治市(2024年6月)、奈良県天川村(2024年10月)、兵庫県姫路市(2025年3月)等において導入が進んだ。

また、大阪府でも宿泊税の免税点を7千円から5千円に引き下げるとともに税率を引き上げる改正を行い、2025年2月に総務大臣の同意を得た。2025年9月からの施行を予定している。

表Ⅳ-2-2-3 大阪府の宿泊税の税率

宿泊料金 (一人1泊当たり)	税率	
	改正前	改正後
5,000円未満	7,000円未満:非課税	非課税
5,000円以上 15,000円未満	7,000円以上15,000円未満:100円	200円
15,000円以上 20,000円未満	200円	400円
20,000円以上	300円	500円

資料:大阪府のウェブサイトをもとに筆者作成

●混雑対策としての交通対策

○京都市「観光特急バス」の運行開始(京都市)

これまでもさまざまな観光課題対策を実施してきた京都市であるが、2024年6月に「観光特急バス」の運行を開始。京都駅と東山の主要観光地(清水寺、祇園、銀閣寺等)を結ぶふたつの系統を土・日曜、祝日(平日以外)に運行している。停車するバス停を観光地の最寄りのみに限定することで、所要時間を大幅に短縮するほか、料金を通常の市バス均一運賃230円より高い500円(子供は250円)に設定。2023年10月に国がまとめた「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」を踏まえて道路運送法施行規則が改正されたことを受け、この新しい制度を全国で初めて活用した取り組みとして注目を集めた。地下鉄・バス1日券や京都修学旅行1dayチケットで乗車可能である一方で、定期券や回数券、敬老乗車証等を使用不可とすることで、観光客と市民との棲み分けを図っている。

○海の京都「宮津・天橋立ー伊根間遊覧船」の実証運航実施(京都市)

一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都DMO)では、観光庁の「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」による支援を受け、宮津・天橋立ー伊根間を遊覧船でアクセスする実証運航を実施。2024年7月20日から9月29日の土・日曜、祝日に1日2往復運航した。陸路に集中していた伊根までの移動手段を海路に分散させるだけでなく、遊覧船としての体験価値を付加することで新たな観光コンテンツにすることも狙いとしている。

●市民の暮らしと観光をつなぐポータルサイト「LINK! LINK! LINK!」の公開(京都府)

京都市と公益社団法人京都市観光協会は、観光がもたらす意義や効果への市民の理解を深め、市民生活と観光の調和の実現を目指す新たな取り組みとして、2024年12月に市民向けポータルサイト「LINK! LINK! LINK!」を開設した。同サイトは、観光が京都にもたらす意義・効果、課題とその対策等を分かりやすく発信しているほか、飲食店や文化施設、体験施設等における市民限定の割引特典情報や市民限定キャンペーン等を集約・発信している。

●京都府立植物園、開園100周年「LIGHT CYCLES KYOTO」開催

日本最古の公立植物園として2024年に開園100周年を迎えた京都府立植物園では、夜間限定のアートイベント「LIGHT CYCLES KYOTO」(2024年10月18日~12月26日、2025年も開催予定)を開催。日本最大級の観覧温室を舞台に、光や音、プロジェクションマッピングを用いて、植物の神秘的な姿を演出している。カナダを拠点とする世界的アート集団「モーメントファクトリー」が企画・演出を実施した。

●大阪市でアジア初「IGLTA世界総会」の開催(大阪府)

2024年10月、大阪市において、LGBTQ+観光を推進する国際組織、国際LGBTQ+旅行協会(IGLTA)の世界総会がアジアで初めて開催された。世界約50か国から約800名の旅行・観光関連事業者が集結し、世界的に成長を続けるLGBTQ+旅行市場への対応を本格化させる重要な機会となった。また、性の多様性を祝う関西最大級のイベント「レインボーフェスタ!2024」も同時開催された。

●観光データプラットフォーム「大阪観光DMP」を公開(大阪府)

公益財団法人大阪観光局は、データに基づく観光戦略策定とPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルの普及を目指し、観光関連データを一元化・可視化するプラットフォーム「大阪観光DMP」を構築し、無償トライアル版を2024年7月に公開した。同局が実施する国内外の観光客動向調査の結果や、公式サイト「OSAKA-INFO」のアクセス解析、公式アプリ「Discover OSAKA」のユーザートレンド、観光庁のオープンデータ等を集約している。

●あこう魅力発信基地が地域DMOに登録(兵庫県)

兵庫県赤穂市で観光振興と移住・定住促進を担う一般社団法人あこう魅力発信基地は、約2年間の準備期間を経て2024年9月に観光庁の登録DMOとして正式に登録された。“赤穂ミネラルツーリズム”を観光の軸とした体験型コンテンツの造成やプロモーションを本格化させ、データに基づいた持続可能な観光地域づくりを推進していく。

(福永香織)